

シラバス作成ガイドライン

シラバスは、学生の学習を支援するためのアウトラインであり、学習への動機付けとなる。そのため、学生が受講するにあたって何をしなければならぬのかが理解できるように具体的に提示をする必要がある。また学生は『何の為に、どのように学び、何ができるようになるのか』を具体的にイメージすることができ、また、安心して授業を受けることができることを目的とする。

1. シラバスの役割

<学生にとって>

- (1) シラバスの情報から、その授業科目を修得するためにどのくらいの学習が必要なかを把握できます。その結果、目標を意識させることで、学生の主体的な学習を促すこともできます。
- (2) 教科書・参考書等を事前に知り、学習の準備を主体的にすることができます。

<教員にとって>

- (1) 何を、どこまで、どの程度、どのように教えるのか目標達成に向けた「授業計画」の構築につなげることができます。また、目的を効果的に達成するための授業改善にも生かすことができます。
- (2) 教員間で、お互いの授業の目的や学習目標、内容等を確認し共有することができます。整合性のある教育カリキュラムの構築につなげることができます。
- (3) シラバスは、教員と学習者との「約束」であり、教員は授業に責任を持ちます。

2. シラバスの主な記載項目

(1) 科目名

(2) 単位数（時間数）

(3) 授業を行う学年

(4) 年度／時期（授業期間）

授業を行う年度および時期（前期・後期）を記載します。

(5) 授業方法

講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します。

(6) 評価方法

筆記または実技試験やレポートの他、提出課題を含む実習の評価、学習への意欲、その他の方法について、評価方法や各評価項目の割合を記入します。

(7) 担当教員の職種及び実務状況

複数の教員で担当する場合は全員を記載します。

また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します。

(8) 授業の内容

学習目標が達成できるような内容を明確に記載します。

また、実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験での学びを活かした授業内容を記載します。

(9) 教科書・教材

授業で使用するテキストの記載をします。参考書は副読本として使用する書籍等を記載します。

(10) 評価基準

評価方法の項目について記載します。